

## ハイデルベルク信仰問答より

問 124 第三の願いは、何ですか。

答え 「御心の天になるごとく、地にもなせたまえ」であります。願わくは、私たちおよびすべての人々が自分自身の意志をすてて、何の不平も言わず、ただひとり善でいますあなたの御心に従い、それゆえ、すべての人が天にいます御使いのように、喜んで忠実に、自分の職務を成し遂げることができるよう、ということであります。

〔別訳〕

答え 「みこころの天になるごとく、地にもなせたまえ」です。すなわち、わたしたちやすべての人々が、自分自身の思いを捨て去り、唯一正しいあなたの御心に、何一つ言い逆らうことなく聞き従えるようにしてください、そして、一人一人が自分の務めと召命とを、天の御使いのように喜んで忠実に果たせるようにしてください、ということです。

「御心の天になるごとく、地にもなせたまえ」――

これは、「神のご計画が、この地上にも実現しますように」という、壮大でありながらも、日々の私たちの歩みに深く関わる祈りです。

この問いの中で特に注目したいのは、「**私たちおよびすべての人々が**」という部分です。

第一に、「**私たち**」とは――神を信じる人々、キリストのものとされた私たち――のことです。救われる前の私たちは、「神の御心」などというものがあるとは想像もしないままに生きていたかもしれません。しかし、聖書の御言葉の中にそれを見出しました。人知をはるかに超えた神のご計画があり、その聖い御旨が地に成ることを求めて生きる道があると知ったのです。

ですが第二に、その「神の御心」は自分の中だけに留めておけばよいというものではないことに気づき始めます。この世を愛しておられる創造主なる神の御旨を世界中に宣べ伝えていきたい、そういう思いに突き動かされるようになるのです。私たちは先にその恵みにあずかった者である。そういう認識をもって生きる時、この祈りは宣教の意味を持つようになります。

つまりこれは、私たち一人ひとりの内側の変化だけでなく、世界全体の歩みが、神の御心に従っていけるようにとの祈りでもあるのです。誰か特定の人のためではなく、すべての人が神の愛のもとにある者として歩んでいけるようにという、広く深い願いが込められています。

もう一つ心に留めたいのは、「**天にいます御使いのように**」という表現です。御使いたちは、神の御心を疑うことなく、喜んで忠実に従っています。私たちもまた、そうした御使いたちのように、心から主の導きに従う者とされたい――それが、この祈りの核心なのです。とはいえ、実際の私たちはどうでしょう。「自分の意志をすてる」と聞くと、どこか強制されたような重苦しさを感じるかもしれません。けれども、ここで語られているのは、「意志を無理やり捨てさせら

れる」ということではなく、むしろ「主の御心を選び取る自由」が信仰によって私たちに与えられている、ということなのです。なぜなら、主の御心は、時として私たちの願いと違って見えるかもしれませんが、実は私たち以上に私たちの幸せを願い、豊かに導こうとしてくださっているものだからです。

私のささやかな証を綴らせていただきます。主に献身していくとき、物事の選択において大きな問いに直面することがあります。どこの神学校で学ぶべきか、卒業後に複数の働きのオファーがある場合どれを選択すべきか、そして誰と結婚することがふさわしいか……等。私の人生においても、これらは重要な意味を持っていました。特に進路の選択においては、さまざまな人の意見が耳に入ってくる中で、自分がどうすべきか分からなくなってしまったこともありました。「自分はこうしたい」という思いも確かにありましたが、最終的には「神様はなぜ自分をこのような環境に生まれさせたのか」という視点に立ち、そこに神の摂理の風が吹いていることに気づかされたのです。そして私は、その風に身を委ねるような生き方を選ぶようになっていきました。

主のご計画は、私たちの理解を超えてなお善に満ち、真実で、愛に根ざしています。だからこそ私たちは、日々祈ります。「主よ、今日もあなたの御心に気づかせてください。そしてその御心を、天にいる御使いのように喜んで受けとめ、忠実に歩ませてください」。この祈りは、私たちの心の姿勢を整える祈りであり、神の愛とご計画に、全幅の信頼を置いて生きていくための力となるのです。